

特定非営利活動法人
日本雲南聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1階
Tel. 03-5206-5260 Fax. 03-5206-5261
Email: yunnan@jyfa.org
URL: http://www.jyfa.org/
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel. +86-871-3311468 Fax. +86-871-3320658

編集・発行人 初鹿野志郎
印刷協力 備日経印刷 備技術評論社



彩雲の南

第29号

発行日 2009年(平成21年)5月20日

会報

私たちは 未来を紡ぐ子どもたちと 学校を作っています



老木壠小学校開校式

2009年4月17～23日、日本・雲南聯誼協会の『第18、19校目小学校開校式ふれあいの旅』に同行し、雲南省南西部の臨滄市ほかを訪ねた。いずれも山間僻地の貧しい村だったが、純朴な村人が温かい笑顔で迎えてくれた。

日本側からの参加者総勢25名が、2台のマイクロバスに分乗して支援第19校目「老木壠小学校」へ向う。昆明市内から国道を100キロほどで武定県に至り、老木壠村は武定の街から更に山間部に入った奥にあった。昆明市内からの距離はさほどではないが、4時間を超えるロングドライブであった。理由は「悪路」。舗装はされているが、路面の隨所に「穴」があいていて、最後尾の座席に座った人は、天井に頭をぶつける危険と隣り合わせ。油断大敵、悪運は忘れた頃にやってくるのである。

武定の街を過ぎ、山道を右に左に揺られて登って行くと、道路沿いにちょっとした人だからが、老木壠村だった。腰をさすりつつマイクロバスを降りると、人だから向こうに老木壠小学校の校門が見えた。校門に通る小道の両側に子供たちが並び、涙と手拍子で迎えてくれた。校門の前では歓喜の女性（実は先生）が横一列に並んで「おせんぼう」。販やかな歌声とともに竹を輪切りにした酒杯を差し出し、「ぐい」と飲めと身振り手振りで言う。「遠くからよく訪ねてきました。楽しく過ごしてください」という歓迎の儀式だ。3杯目を勧められたときには「熱烈歓迎」が全身に伝わっていた。

老木壠小学校はイ族、リス族の子供たち124人が通っている。1995年と2000年の地震で校舎は最も危険な建築物に指定され、協会で集まった支援金によって校舎を再建し、東京たまがわロータリークラブの支援により机と椅子、宿舎のベッドが贈られた。開校式は新築された校舎を背景に、児童、学校関係者、ロータリークラブの代表、協会関係者が一同に会して行われた。学校関係者が日本側の支援に謝辞を述べ、ロータリークラブの三木会長が「しっかりと勉強して、将来は社会に役立つ人になってください」と子供たちを激励。校舎1階の階段踊り場の壁に伸版を設置して

式典は満りなく終了した。

式典終了後、校庭は即席のパーティー会場に早変わり。先生方が手作りで用意してくれた昼食を参加者全員で味わいつつ交流を深めた。ワラビ・ゼンマイの炒め煮、カボチャのスープ、鶏肉の煮込み、茹でた里芋、じゃがいもの唐揚げ、自家製の豆腐などなど、老木壠村で採れた野菜を使った家庭料理が「山盛り」。見た目は野暮ったいが、この日、この場所でしか味わうことのできない「美味しさ」が溢れていた。

清平小学校開校式

4月20日、飛行機で昆明の南西約1000キロに位置する臨滄市へ向い、そこから陸路で双江拉祜族の清平村を訪ねた。「騰滄」とは「騰滄江(メコン河)の川辺の町」の意。遼らかな朝日に照らされた市内を通して国道を南に下り、まずは双江県を目指す。その先を追ればミャンマーとの国境。市内を抜けると国道の両側はお茶と菜の花畑。先に行くにつれて黒山の景色が広がり、平地は水田に変わり、絵豊かな農村風景が広がっていく。騰滄を出発しておよそ5時間、大文郷清平村にようやく到着。そこは、標高3000メートルほどの山々に取り囲まれた小さな村であった。山々は朝日付近まで段々畑に耕され、谷底から頂上まで僅に1000メートルはありそう。ところどころで土盛りが崩れているのが見え、「山崩れの心配はないだろうか」と不安がよぎるが、崩れたら作り直すか



式典会場の校庭へ子どもたちの行列が続く（老木壠小学校）

諦めるかのどちらかで、どちらにしても“自然のまま”ということなのだろう。

マイクロバスを降りて少し歩くと真新しい校門に出る。中に入ると、コンクリート舗装された校庭の奥にいかにも頑丈そうな鉄筋の校舎が聳いていた。校庭には、子供たちが緊張した面持ちで待っていてくれたのだった。この学校には、ラフ族、ワ族、タイ族の児童114人が学んでいて、法人会員のアネムホールディングス、一つ橋綜合財團からの寄附、協会会員からの会費によって改築が行われた。空気の下、開校式には村の人たちもやってきて、和やかな雰囲気の中にも書きと進み、盛大な爆竹で終了となった。式典終了後、学校関係者が校舎内を案内してくれた。子供たちもぞろぞろと後を追って来て、好奇心丸出しの様子。

この村には電気が通っていない、ところどころの家にバラブランアンテナが据え付けられている。校門の直ぐ側にある小さなお店の前で子供たちがたむろしてちょうどお店のテレビを見ているところであった。山間僻地にも文化の波は確実に押寄せているようだ。式典後は、予定を変更して「布京小学校」で宿泊することになり、名残を惜しみつつ日が傾きかけた清平村を行にした。

今回のツアーパートは得難い収穫がたくさんあった。布京村での村民との対話集会、老木壠村の先生との会話を通じ、困難な環境の中にあっても「学びたい」「学ばせたい」という熱意がひしひしと伝わってきた。子供たちは、貧しい中にも将来への夢と希望に目を輝かせていた。中国もそういう時代を迎えたということなのだろう。近い将来、すべての子供たちが自由に学び、自由に自分の生きる道を選択でき、雲南省に「貧困僻地」と呼ばれる地域がなくなる日のことを強く願った5日間であった。

(NPO法人 日本・雲南聯誼協会会員・平田栄一)

【中国側協力者一覧】

雲南省華昌弁公室／雲南省商務厅副厅長・王述偉／雲南省商務厅外商投資サービスセンター主任・袁勤／武定県教育局局長・常榮／双江拉祜族佤族鄉政府長・孫炳／双江拉祜族佤族鄉教育局局長・王明興／雲南省婦人聯合會／昆明市テレビ局・中国民族影视藝術發展促進会副秘書長・張清麗…その他各地域小学校の先生方、住民の皆さんにも多くなるご協力をいただきました

皆様からの善意で
新たに生まれ変わった2つの学校



AFTER
老木壩小学校

«老木壩小学校の状況»
民族：リス族、イ族
所在地：
楚雄イ族自治州武定県插甸鄉老木壩村
児童数および学級数：124人
1～6年生6クラス
教職員数：8人

老木壩小学校はこの老木壩村委員会で唯一の完全小学校（1～6年生までの全ての児童が通っている学校）で1994年に現在の場所に移転し、校門、囲い塀、トイレ、運動場を改修し、学校環境の条件は大きく改善しましたが、1995年と2000年に起きた二つの地震により、校舎が国家D級の危険建築物に指定され、児童と教師たちは危険と隣りあわせで勉強していました。この地域の経済力では、破損した校舎をすぐに改築することができず、旧校舎に一歩入ると、壊れた天井や壁などが見られ、いかにも危険といった印象を受けました。また、以前の寄宿舎では、子どもたちは土床に敷かれた板の上に薄い前団を敷いていたので、極寒の冬はとても辛い思いをしていましたが、新たに二段ベッドが入り、安心して生活できる環境が整いました。

«清平小学校の状況»
民族：ラフ族、ワ族、タイ族、漢族
所在地：
臨滄市双江県大文郷
学校設立：1953年
児童数および学級数：
114人
1～6年生6クラス
教職員数：9人

臨滄市は、標高が高い山岳地域に属しているため、産業が遅れていて、ラフ族やワ族など、国が指定した「特別貧困民族」が住んでいる地域です。そのため、清平小学校のあるこの村は新農村建設モデル村となり、政府により様々な改革が行なわれてはいるのですが、その改革の手はなかなか届くまでいきわたっていませんでした。清平小学校の校舎や宿舎は狭く、建築耐久年数も過ぎていました。1988年の大地震による天井、壁の変形もあり、幾たびの修理をしましたが、子供たちが勉強をするにはあまりにも危険な状況でした。村民と学校全体の強い希望があり、今回当協会で校舎の建設費の一部を補助し、新校舎が建設されました。

清平小学校
AFTER



フレンドシップ協定を締結しました

插甸乡老木壩小学数学授業成績表
老木壩小学校と日本東京都猶江市立和泉小学校が3年間の交流を行う協定を交わしました。両校長先生のサインが入った協定書が掲げられると、会場から拍手が沸き起こりました。この日、日本側を代表し、東京たまがわロータリークラブの三木秀隆会長が協定式に参加しました。今後、お互いの文化を学びつつ絵画等の作品や手紙交換を通しての国際交流がスタートします！

清平小学校の寄宿舎
整然としている室内



100万回の
手洗いプロジェクト
第一回勉強会



JICA(国際協力機構)
H20年度第1回の相模川委嘱型事業

当協会が2007年度から企画・立案している「環境・衛生改善プロジェクト（通称100万回の手洗いプロジェクト）」は、昨年末JICA草の根協力事業に採択され、中国本土でも国家プロジェクトとして承認を得て、いよいよ実施に向けてカウントダウンの段階になりました。

3月6日、第一回目の勉強会を開催し、参加者は、初鹿野理事長や講師の方、プロジェクトに関心を持つ会員や学生等合わせて16名となりました。

今回は、青年海外協力隊で四川省涼山州で衛生教育のご経験のある齊藤順子さんを講師にお招きし、お話を伺いました。齊藤さんは、赤十字の活動の一環として、中国四川省の涼山イ族自治州のある小学校で衛生教育をされていました。人口600人のこの村では、2003年から4年間にわたって、月に一度の村民対象衛生講座や年に一度の健康診断、小学校教師とともに行う衛生授業などを行ったそうです。その活動の一つとして、「歯磨き強化月間」がありますが、これは児童たちに虫歯・歯磨きについて理解してもらい、上級生から下級生へ、また児童から村民へ歯磨きを指導する、家庭訪問により両親の歯磨きへの理解を求めるなどの活動だそうです。

単なる押しつけの指導ではなく、地元の児童や親、村民が、自分たちで歯磨きの必要性を理解し、主体となって実行していくことが、衛生習慣を根付かせ、広げていく

ために重要なことです。まさしく協会の目標すむに通じています。

一方で、村民の中に援助者に対する依頼心が芽生えてしまったり、少数民族としての伝統文化を守りたい反面、周囲の発展とはこれまで戸惑う心理もあり、援助は難しい一面があると考えさせられたそうです。

そこで、本プロジェクトのマネージャーであり、公衆衛生専門家の薄田栄光さんから、「100万回の手洗いプロジェクト」の概要説明がありました。

その後、参加者を交えて意見交換タイム。皆さんからは様々な質問が出され、開心の高さがうかがわれました。また今回の勉強会にJICAの方が4名もお見えになつたことは、私たち一同にとって大変楽しみになりました。

予定の約1時間半はあっという間に過ぎてしまいました。協会では今後も折を見て、このプロジェクトの説明会や勉強会を行っていく予定ですので、ぜひご参加ください。

会場を移して、春雷生徒を交えての昼食会が行われ、絶好の交流の機会となりました。食事をしながら、幾かの生徒に将来の希望を聞くと、「先生」「医者」「デザイナー」「音楽家」などの答えが返っていました。誰もが「国や社会、故郷に貢献できる、役立つ人間になりたい」と言っていました。「大きな花を咲こうとする苗」のように、それぞれに大学進学、社会人へと夢と希望を膨らませています。どの子も未来に向けて、一生懸命に学んでいます。一人一人、将来への夢を描いています。それがひしむしと伝わってきました。

食事会も佳境に入った頃、生徒の有志が出身民族の歌や楽器演奏、踊りを披露してくれて、話も弾み、生徒たちとの距離が一気に狭まりました。「ボーカフレンドはいますか？」の質問に、全員が即座に「いません！」と声を上げて笑っていました。勉強に励む青春真っ盛り！の春雷生徒たちでした。昼過ぎ、校門で生徒全員が名残を惜しみつつ、「また来てください」とお別れの歌を合唱して見送ってくれました。

（日本・雲南聯説協会 会員 平田栄一）

ようこそ、
私たちの学び舎へ！



～基金贈呈式と里親里子の対面交流会～

「25の小さな夢基金」支援校の昆明市女子中学校春雷クラスを4月19日に訪問しました。春雷クラスの生徒は、雲南省に暮らす少数民族の女子で成績優秀で且つ進学希望を持ちながらも、貧困家庭ゆえに高等教育を断念せざるを得ない子供に教育の機会を与え、自立した社会人として育てる目的で、1997年に設立された特別クラスの呼び名です。雲南省全土から選抜された中高校生がここで寄宿生活を共にしながら学んでいます。

協会からの基金贈呈式では、初鹿野理事長から「愛」と支援の心を綴り交ぜた素敵なスピーチの後、校長先生及び生徒代表に基金が贈られ、生徒から謝辞が述べられました。基金贈呈に続き、日本側の里親と里子である春雷生徒との対面式が行われ、初めての対面に春雷生徒ははにかみながらも笑顔で喜びを表していました。その後、教室や女子寮を見学し、東京たまがわロータリークラブから贈られた雛人形を囲んで記念撮影。どの子もきらきらと輝く瞳とすばらしい笑顔に満ちていました。

式典終了後、学校近くのレストランに

～雲南の子どもたちへ絵本を送ろう～ 綾部ローターアクトクラブ 翻訳済みの絵本を寄贈

「もしも日本の家庭で不要になった絵本が、雲南省の子どもたちのために翻訳されて生まれ変わり、それを現地に届けられたら——」そんな素敵な思いが現実のものとなり日本・雲南聯説協会へ届けられました。京都府綾部市から綾部ローターアクトクラブの会長・杉山俊平さんと、このプロジェクトの発起人である同クラブ前原一貴さんがご来訪され、1冊1冊丁寧に中国語へ翻訳された100冊の絵本を寄贈していただきました。

この日は、翻訳絵本のサンプル数冊をご持参いただきました。初鹿野理事長はじめ協会スタッフは、その完成度の高さに大変驚きました。綾部ローターアクトクラブでは、近鄰に住んでいる中国人ボランティアを中心に60人ほどが約3ヶ月かけて翻訳作業を進めてきたそうです。寄贈いただいた絵本は綾部ローターアクトクラブ様より直接、雲南省へ郵送していただき、このたびの4月17日からの開校式の旅で、さっそく2校に配布しました。

雲南省の僻地に住む子どもたちは、ほとんどが絵本を見たことがありません。日本の絵本を見た子どもたちは、大喜び、すっかり絵本の持つ魅力に夢中になったようです。今後、建設支援をしたすべての小学校に順次配布して行きます。子どもたちの喜ぶ顔が今から目に浮かびます。



中国語翻訳絵本を100冊寄贈していただきました

開校式の際に老木苗小学校に贈られた絵本は、学校の本棚に納められました（写真は校長先生）

綾部ローターアクトクラブの
杉山会長、前原さんがご来訪

丁寧に貼り直されています



映画「夢の壁」制作会見 初鹿野理事長が出席しました

昨年日本で公開され、協会でもご紹介した、雲南省元陽のハニ族が暮らす開田地域が舞台の映画「さくらんぼ 母ときた道」張加貝監督が再びメガホンを取りました。今回は、終戦前後に北京で出会った中国人の少年と日本人の少女との心の交流を描いた芥川賞受賞作「夢の壁」を映画化。

3月13日、この制作発表記者会見が北京市内で行われ、原作者の加藤幸子さん、父親役の周間トオルさん、「おしん」で有名な、母親役の小林絹子さん、子役の佐々木麻緒さんなど日中両国の出演者の他、初鹿野理事長も出席しました。

当協会では、初鹿野理事長がエグゼクティブ・プロデューサーとして、この映画撮影開始前に張加貝監督と共に企画・宣伝・資金調達を実施しました。また協会が支援した小学校の中から二人の子どもが脇役として出演し、会員の近藤第一さんと三木秀隆さんからも多大なご支援をいただいています。

6月の完成を目指して、河北省や甘肃省で撮影が行われています。張加貝監督は、できれば 日中で同時上映を実現させたいと話していますので、日本で公開される際には、皆さんぜひご覧ください！

若者たちへ…今の中華人民共和国・雲南を伝える 初鹿野理事長 碧江市立第一中学校講演会



3月5日、碧江市立第一中学校で、協会の活動を紹介する講演会を初鹿野理事長が行いました。今回の講演会は、協会にさまざまなご協力を下さっている、東京たまがわロータリークラブとのご縁によるものです。当日は天気もよく、春のような陽気でした。

会場となった音楽室には、90人ほどの2年生が集まりました。初鹿野理事長の講演が始まり、雲南の子どもたちが通学路となっている道の映像が映ると、「えー！」という驚きの声が上がりました。特にボロボロの校舎の映像では、この建物がまさか学校だとは思ひなかつたようで、言葉を失っていました。自分たちとはあまりにも違う環境は、少なからず衝撃を与え、彼らの心に何かを芽生えさせたようです。

生徒の中には中国からの留学生もいて、初鹿野理事長が中国語で話しかけると、それを聞いた生徒たちも中国語に興味を持った様子でした。休憩時間には初鹿野理事長やスタッフのものに集まり、「私の名前は中国語でどう言いますか？」など質問をしていました。また、鉛筆の寄付を申し出てくれた生徒もいて、自分たちができるることを考えてくれたということに、とても嬉しくなりました。

生徒たちにとって、なかなか知ることの出来ない世界に触れることで、幅広い視野を養うきっかけとなればと思います。碧江市立第一中学校の皆様、東京たまがわロータリークラブの皆様、ありがとうございました。



休憩時間、生徒たちからの質問に答える初鹿野理事長



雲南省ふれあいの旅に参加しませんか！

25の小さな夢基金第一期生卒業式
第12校目思茅葉戸小学校・第20校目麗江后山小学校開校式
参列ふれあいの旅ご案内

- 旅行日程：2009年6月27日(土)～7月4日(土) 7泊8日
- 訪問予定地：雲南省昆明市(昆明女子中学春華クラス)、麗江市(后山小学校)、思茅市(景洪小学校)
- 行事予定：25の小さな夢基金第一期生卒業式参列
第12校目葉戸小学校開校式参列・交流
第20校目后山小学校開校式参列・交流

当協会の企画する、雲南省ふれあいの旅が2009年6月27日(土)～7月4日(土)7泊8日の日程で開催されます。昨年の1月に開始して以来、多くの皆様からご支援を頂いております「25の小さな夢基金」にて、支援を受ける第一期生の生徒たちがこの度めでたく卒業を迎えます。サポートや会員の皆様はもちろん、「協会ってどんな活動をしているの?」「雲南省の実際の支援現場はどうなっているの?」という素朴な疑問をお持ちの皆様からのご参加を歓迎いたします! 初参加、一人参加はもちろん大歓迎です! 観光旅行では決して得ることのできない、現地の子どもたちやその親、先生や村人たちとの貴重なふれあいをぜひご体験ください。

参加お申し込み、お問い合わせは協会東京本部(tel.03-5206-5260)までお気軽にお問い合わせください。

「夢の壁」には、当協会の初鹿野理事長がエグゼクティブ・プロデューサーとして関わっています！

写真左) 左から二人目から張加貝監督、小林絹子さん、佐々木麻緒さん、初鹿野理事長、(中央後) 周間トオルさん

写真下) 記者会見会場には、日中両国の報道陣が集まりました

協会トップニュース

10周年記念事業に向けて準備本格化 協会役員会開催

東京・2009年1月、3月、4月

行事活動

2009年に入り、1、3、4月と当協会役員会を開催しました。お忙しい時期にも関わらず、毎回多くの役員にお集まりいただきました。

役員会では、現在の協会の動向や会計収支報告などが報告され、意見交換がされました。特に、来年6月に控えた、日本・雲南聯誼協会設立10周年記念事業については、時間を割いてその内容の検討や、役割分担を行いました。設立から10周年の大きな節目を迎える協会、それを記念する式典の開催日程は2010年6月26日(土)に決定いたしました。役員会を中心に、現在内需についても詳細を詰めておりますが、こちらは決定し次第追ってお知らせいたします。支援をしている子どもが雲南省から来日しスピーチをしたり、日本や雲南の音楽やダンスを織り交ぜた内容を企画していますので、どうぞ皆様お楽しみにしていてください。



会場パンフレットの一部で、内部にて書いたのレジ前には

また、この2月より、東京本部が中心となり協会の広報活動も新たに企画をし、役員の協力を得ながら実行に移しているところです。協会財政の安定化を図るために、更なる会員獲得と現会員の維持が欠かせません。協会のパンフレットや会報を置かせていただけそうなところにお電話し、直接訪問し依頼する活動や、各種講演会の企画、企業へのアピール活動など、その他の広報活動も企画実行中です。

今年も強い日中友好の絆を 中国大使館華僑華人新春パーティー

東京・2009年1月19日

交流活動



日本のお正月の余韻がまだ残る2009年1月19日、初鹿野理事長が中國大使館で開催された華僑華人新春パーティーに出席しました。

中国の今年の春節(お正月)は1月26日ですので、お正月前の高揚した気分の中、明るく楽しいパーティーとなりました。会の中で、崔天凱大使からは次のようなご挨拶がありました。「2008年は中国にとっても、世界にとっても大変な一年でした。中国は改革・開放30周年の節目の年を迎え、両国関係は歴史的な新たなスタート地点に立っています。中国の経済・社会発展でこのような成果は、海外華僑・華人の支援を抜きにしては語られません。今、世界は、米国のリーマンショックによる世界的な金融危機により、かなりの打撃を受けていますが、この試験も共に手をつないで乗り越えていかなければなりません。」と、国や人々の絆の重要性を訴えられました。崔大使のお言葉を聞き、協会としても、日中友好の絆を更に強なものにするために、努力を継続ていきたいと決意した一日でした。



雲南省は中国最西南部に位置し、ミャンマー、ラオス、ベトナムと国境を接しています。面積は約39万km²(日本とほぼ同面積)、人口約4300万人です。土地の9.4%が山地で、海拔7.6mの河口から6.7-4.0mの梅里雪山という高山も存在する特色豊かな地域。世界遺産登録地も多く、最近では観光面からの注目を浴びています。

『彩雲の南』に広告を掲載しませんか?

次世代によりよい環境を 省都昆明市でCDMプロジェクト構想はじまる

雲南省昆明市・2009年2月~

交流活動



工業区を視察する一行

きることはないかと考えています。

この2月、雲南省で省エネやCDM(Clean Development Mechanism クリーン開発メカニズム)に関する会議が開かれることになり、初鹿野理事長に日本の省エネ技術の会社が同行し、昆明市に向かいました。そして、CDMプロジェクトの可能性を政府に打診、昆明市の政府関係者と昆明市官渡工業園区を視察してきました。

会議では、昆明市政府環境最高責任者 王道興副市長を始め、関係者とCDMプロジェクトについて話を伺いました。王副市長は、日本の素晴らしい環境技術、特に水質、土壤や資源再生などに関するものを雲南で応用してほしい、是非日本の会社に足を運んでいただきたいと述べられました。また、初鹿野理事長の示した環境に対する同心に感謝と歓迎の意を表されました。

私たちは次世代の子ども達のために教育支援を行っていくだけでなく、生活していく為に基本的な「地域能力」を守るために、様々な取り組みに可能性を探っていきたいと考えています。

阪神大震災の経験から… アーティストとファンたちから温かい募金届く

東京・2009年2月18日

交流活動



所属アーティストのコンサートツアーで募金活動をしていただきました。写真は実際の募金箱とチラシ

中国中西部に位置する四川省で、現地時間2008年5月12日に発生した地震に対し、当協会では昨年5月から10月まで、募金活動を展開し、会員はじめ多くの皆様から温かいお気持ちをいただきました。その募金は、四川省綿陽市「青少年活動センター」再建費用の一部としてすでに現地に手渡され、現在は完成を目指して建設進行中です。

当協会の募金活動をインターネットで知った音楽制作・アーティストプロデュース等を行う企業であるビッグマイドミュージックでは、所属アーティストのコンサートツアーを通じて復興支援を目的とする募金活動を行ってきました。同社代表でアーティストでもある江藤雅樹さんの、阪神大震災で自身が被災している事がきっかけとなり、「何か出来る事を…」との想いで始まった募金活動だそうです。

この日、同社佐藤真治副社長らが当協会東京本部を訪れ、寄付として初鹿野理事長に直接募金を手渡してくださいました。

温かい御支援をお寄せくださったすべての皆様には改めて心より感謝申し上げますと共に、当協会では、今後の再建計画の進行状況やその後の交流事業も追って報告していく次第です。

ご協力ください!

NPO法人 日本・雲南聯誼(れんぎ)協会では、中国雲南省の貧困少数民族への小学校建設・フォローアップ支援を柱とした活動を行っております。当協会パンフレットや会報バックナンバーをご希望の方、入会のお申し込みについては協会東京本部(本誌表紙頁の上部をご参照ください)までお気軽にお問い合わせください。また、募金の振込み先は以下の口座となります。郵便振替口座は、専用払込票をご用意しておりますのでご入用の方は東京本部までご連絡ください。皆様からの温かいご支援・ご協力を待ちしております。

日本雲南聯誼協会(ニホンウンナンレンギョウカイ)宛

■三菱UFJ銀行 目黒駅前支店 普通 1300380

■郵便振替口座番号 00100-8-610935

「彩雲の南」誌上にて御社の広告を掲載し、大きなアピールをしませんか?お預かりする広告費は、当協会の活動運営資金の大きなサポートとなります。ぜひ多くの企業様からのご協力を待ちしております。お申込み・お問い合わせは協会東京本部まで。



メリット① 広告宣伝費が社会貢献に繋がる!

メリット② 中国に関心のある読者へダイレクトに届く!